



\*配付版は後日、改めて配付します

草津東高等学校図書館  
本derful!委員 発行  
2020年 3月号  
学校ホームページ版



現在貸出中の図書は  
4月10日(金)まで  
借りられます



### 『ダレン・シャン 奇妙なサーカス』

Darren Shan : 著 小学館

<あらすじ>

ある日“シルク・ド・フリーク”というサーカス団体が主人公たちのいる町にやってきます。主人公のダレンはクモ好きで、友人のスティーブはヴァンパイアのが好き。二人でサーカスを見に行くことになり、そこで1人の毒グモを操る男性に会います。ダレンはそのクモに一目惚れして、そこから話が展開されていきます。

<おすすめポイント>

主人公と親友の友情の深さがよく伝わってきました。おすすめのポイントは、ある人物と主人公の話合いをしている場面です。この場面はこの本を読む中で重要なところだと個人的に思います。またキーワードは、「別れと再会」です。映画もあるので、ぜひ見てください。

### 『だから私は、明日のきみを描く』

汐見夏衛 : 著

スタート出版

<あらすじ>

おとなしくて自分を出すのが苦手な主人公。友達の好きな人に好意を寄せられて好きになってしまい、その友達との友情にヒビがはいてしまう。苦しみながらも一生懸命に日々を過ごす青春物語!!

<おすすめポイント>

作者の前作「夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く」の主人公の部活の後輩が主人公になった話。友達の好きな人を好きになってしまうという身近なストーリーが細かな心情まで書かれていてとても共感できる作品です。はじめは内気でおとなしい主人公が好きな人と過ごしていくうちに明るく元気な姿に成長していくのがおもしろいです。読むのに時間はかかりますが、読みはじめると主人公の気持ちや周りの環境が伝わってきて、純粋に“恋をしたい!”と思えるのでとてもおすすめです。

### 『しりっぽおぼけ』

ジョアンナ・ガルドン : 著 ほるぷ出版

<あらすじ>

昔、アメリカの森の奥の方にじっさまが3匹の犬と暮らしていました。ある日、晩めしをとりに山へ行きましたが、とれたのは小さなうさぎ1匹。その晩、じっさまは腹を空かせて寝ているとそこに奇妙な動物が現れ、しっぽを懸けた熱いバトルが!

<おすすめポイント>

この物語では、「じっさま」や「しりっぽ」という言葉が多く出てきて、言葉遣いだけでこの物語の場所を想像しやすいと思います。また、ラストのシーンは絵本なのにとっても残酷で衝撃を受けるので、是非読んでみてほしいです。

## 本derful!委員のおすすめ本

### 『夜は短し歩けよ乙女』

森見登美彦 : 著

KADOKAWA (角川文庫)

<あらすじ>

京都の大学に通う大学生が、同じサークルの後輩である黒髪の乙女に一目惚れして、何とか親しくなろうと、京都のまちを舞台にがんばる話。夜の木屋町で、夏の古本市で、学園祭で、視点を交代しながら進んでいきます。

<おすすめポイント>

それぞれの目線が全然違って、天真爛漫で素直な彼女に対し、先輩は独特で言い回しが面白い。特に第3章が騒がしくて、いろいろな人を巻き込みながらいろいろなことがつながっていくので面白いです。ぜひ読んでみてください。

### 『向日葵のくっちゃん』

西川司 : 著 講談社 (講談社文庫)

<あらすじ>

時計も漢字も読めず、支援学級に通うくっちゃんは毎日お母さんに怒られて泣いていた。そんな毎日を一変させたのは、ある引越した場所の学校で心と体の両方を目いっぱい使って教えてくれる、熱血漢すぎる森田先生という先生だった。みじめな毎日に負けそうになっていたくっちゃんに奇跡を起こした出会いと成長の物語。

<おすすめポイント>

私は、この本を読んで私にも主人公と少し似ている部分があって苦手な問題や難しい問題をすぐにあきらめてしまう所が似ていると思いました。しかし、主人公は森田先生という熱血先生に色々教えてもらい何事もあきらめずに頑張るという前向きな考えを持つようになりました。私は、そのような考えを持てるようになった主人公とその考えを持たせた先生をすごいなと思いました。私も、そのような前向きな考えを持てるように日々頑張っていきたいと思いました。また、オススメのキーワードは「字や算数ができるようになるのも頭ではなく、体でおぼえないといけない」です。

### 『うさぎが逃げる』

多岐川暁 : 著

KADOKAWA (富士見L文庫)

<あらすじ>

地味で真面目な女子高生が、趣味で正体不明の凄腕ハッカー「グレー」としてハッキングをしてネットを賑わせていた。ある日、腕試しで海外の企業をハッキングし持ち帰ったデータは恐ろしい計画書だった。そこからダークウェブの遊びが現実を侵食する青春サイバーミステリー!

<おすすめポイント>

現代ではネットが普及しており、あり得るかもしれないネットの恐怖を具現化している反面、ハッキングという一つの物事から始まる出会いや、ハプニングなどがあります。

面白さも、最後までどうなるかわからない緊張感もあり、見どころ満載です。ぜひ読んでみて下さい。

## 人生の一冊

「徳ちゃん、僕は『ツイてる』って一日500回言ってる。言ったら、どうも本当にツイてくるんだよね。寝る前に200回、朝起きて200回、車を運転しながら100回言うんだよ。だから、最近、めっちゃツイてる。」

「辰村さん」は仕事でものすごい業績を残すいわゆる「超人」だった。その塾に入って担当するやいなや、1年目で系列校全国1位の成果を叩き出した。その隣に僕はいた。彼のモットーは「思い立ったら即行動」「やってやれないことはない。やらずにできるわけがない。」である。彼は「ピンク色が運気を呼ぶらしい」と本で読んだ翌日に全身ピンク色で登場したこともある、お茶目でエネルギッシュで、キラキラ(ギラギラ?)した人間であった。

「一風〇はさ、ラーメンができあがった時に、お客さんがトイレとかで席にいなかったら、つくりなおすんだよね。一番美味しい時に食べてほしいから。そういう、『とことんこだわる』って大事だよ。徳ちゃんは、何にこだわってる?」

大学生だった僕は、辰村さんの問いかけに、たじろぐこともしばしばだった。

「徳ちゃん知ってる?泳げないこともプラスに働くときがあるんだよね。泳げない人はボートに乗るとき、自分が泳げないのがわかっているから、救命胴衣や救命ボートに目が行くでしょ。泳げると思っている人は、そんなの見ないから、いざ船が転覆したら、服も着ているし、波も高いし、溺れてしまうんだよ。だから、できないことをわかっているって、それだけですごい大事なことだよ。」

辰村さんに感化された僕は、自分のノートパソコンの「Enterキー」と「マウスのクリックボタン」に「ツイてる」と書いた紙を貼り、指先一つで「ツイてる」気分を味わえる装置を制作した。急にパソコンに「ツイてる」を貼りまくっていたので、周りのみんなからは「徳ちゃん、そんなにツイてないの?」「病んでいるの?」と心配された。

そんな「辰村さん」にプレゼントされた本が『**斉藤一人とみっちゃん先生が行く**』(ロングセラーズ)だ。「辰村さん」のエッセンスが存分に詰まっている。この本は、自分のできなさに自信を無くし、自己否定ばかりしてしまう小学生「みっちゃん」が、後の日本の高額納税者トップ10にランクインする中学生「斉藤一人」に導かれる実話である。僕の人生のバイブルとなっている大切な一冊だ。この本を読んでいると自分が前傾姿勢になってくることがわかる。大げさかもしれないが「生き方が変わった気がした」本だった。「ウサギにはウサギの戦い方があるんだよ。みんながみんな虎になる必要はないんだよ。」

英語教員なのでおすすめの英語の絵本も紹介しておきます。

Shel Silverstein, *The Giving Tree* (HarperCollins, 1964)

読む年齢によって感じ方が全く変わる、ものすごい絵本です。子どもも読めますが、大人になって読むとさらに深みが増します。無駄なものがそぎ落とされたシンプルなイラストにより、愛や寂しさ、孤独と言った様々な感情が強烈に引き立てられます。絵本なので読みやすく、中学レベルの英語で読めます。名作なので日本語版もありますが、絶対英語で読むべきです。英語では、木は「she」と表現され、「not really」のフレーズは日本語にするのは難しい大切な場面です。あなたならどんな訳を付けますか?

## ♪読書マラソンおすすめ本♪ ②

本校図書館で開催していた「読書マラソン」より、優秀書評賞に輝いた本&おすすめコメントを紹介します。

\*ほかの受賞作は2月号に掲載済

### <優秀書評賞>

#### 『**鳥に単は似合わない**』

阿部智里/著 文藝春秋

<おすすめ人：S・S>

#どんでん返し

#### どんな本?

4人の姫が若宮に選ばれるために壮絶なバトルをする話の本。

#### 感想・コメント

最後に、自分が予想していたものと違う方向に話が進んだのでびっくりした。つぎつぎにいろんな事件が起こってくるから、読んでいて面白かった。

### <優秀書評賞>

#### 『**余物語**』

西尾維新/著 講談社

<おすすめ人：まっちゃん>

#斧乃木余接 #99

#### どんな本?

老倉育(オクラガチ)に児童虐待の専門家に仕立て上げられた阿良々木曆(アラギヨシ)は、家主(イヅミ)准教授から相談を受ける。「子どもを虐待している。自分の子どもを愛せない」と。なんやかんやで教授の家に急行したが、そこで彼が見たものは—!?

#### 感想・コメント

家主准教授の家の中を見たとき、本当にびっくりしました。それだけでなく、そこからまだまだ驚きの連続で本当におもしろかったです。また、今回のヒロインが死体人形・斧乃木余接(オノキヨギ)ってのもさすがだなと思いました(なぜなのかは読めば分かります)。斧乃木ちゃん好きには最高の一冊になっていると思います!

### <本ダブル講演会(12月)の感想より>

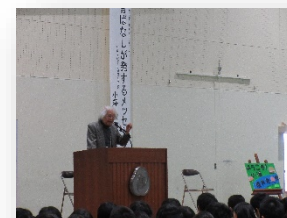
#### 小澤俊夫先生「昔ばなしが発するメッセージ」

「良かった」478人 (67.7%)

「やや良かった」209人 (29.6%)

「やや良くなかった」6人 (1.7%)

「良くなかった」5人 (0.7%)



●三年寝太郎の話聞いて、なんか安心させられた。“いつか起きる時が来るから”が印象的だった。それに甘えずに、やる時はやる大人になる。

●小澤先生がおすすめされていたグリム童話の4番の話が気になりました。昔話はすごく奥が深いなと思ったし、もっと色々な話を知ってみたいと思いました。

●昔話には全てに共通する形があると初めて知りました。血が出ないなど、安心しながらおもしろく聞くことができるのも昔話の特徴だと知りすごいなと思いました。経験も「昔の話」として未来に伝えていくことができるのだと思いました。

\*ほかの感想も、学校ホームページに掲載中!